

令和3年度病虫害発生予察注意報第2号

令和3年 5月21日
愛知県

作物名：キク、野菜類（キャベツ等）
病虫害名：オオタバコガ

- 1 発生地域 県内全域
- 2 発生程度 多い
- 3 注意報発表の根拠

- (1) キクほ場に設置しているフェロモントラップにおけるオオタバコガ成虫の誘殺数が4月下旬から5月上旬に急増した（図1）。
- (2) 5月第1半旬から第2半旬にかけての誘殺数は、平年と比較して、キクほ場に設置している稲沢市で3.1倍（本年39頭、平年12.56頭）、豊川市で6.1倍（本年49頭、平年8.0頭）、ダイズほ場に設置している西尾市で14.9倍（本年170頭、平年11.38頭）、豊田市で4.3倍（本年97頭、平年22.67頭）であった。西尾市、豊田市及び豊川市においては、過去10年間で最も多い誘殺数である。
- (3) 5月20日名古屋地方気象台発表の1か月予報によれば、向こう1か月の気温は平年並みか高いと予想されており、次世代幼虫の発生が多くなると考えられる。

4 防除対策

- (1) 茎、花蕾、果実あるいはキャベツ等の結球部に食入した幼虫や、発育が進んだ幼虫に対しては薬剤の効果が著しく低くなるため、若齢幼虫のうちに薬剤防除を徹底する。
- (2) 被害部位（茎葉、花蕾、果実等）などの残渣は、卵や幼虫が付着している可能性があるため放置せず適切に処分する。
- (3) キクでは、生長点付近や花蕾を加害されると商品価値がなくなるので（図2）、早期発見に努め、キク及び花き類に適用のある農薬で防除する（表）。
- (4) 広食性で多くの野菜類、花き類を加害するため、ほ場への成虫（図3）の飛来や幼虫の発生状況に注意する。
- (5) 施設栽培では、開口部に防虫ネットを設置し、成虫の侵入防止に努める。
- (6) 薬剤感受性が低下しないようにIRACコードを考慮し、農薬の連用は避ける（表）。

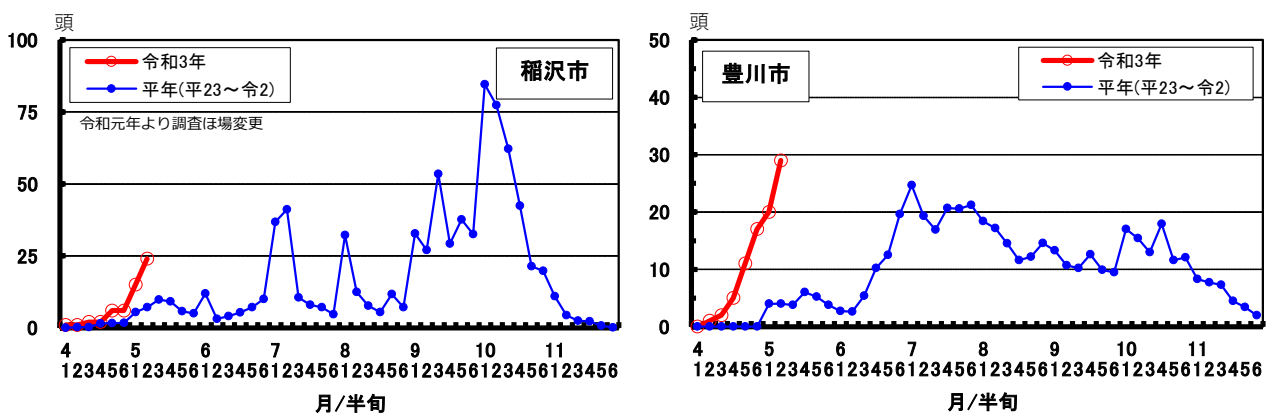


図1 キクほ場に設置したフェロモントラップにおけるオオタバコガの誘殺状況

※平年は平成23～令和2年の10か年の平均値（ただし4月及び5月は平成24～令和2年の9か年）



図2 キクを加害するオオタバコガ幼虫
(左：生長点付近、右：花蕾)

図3 オオタバコガ成虫

表 オオタバコガに対する主な防除薬剤

作物名	農薬名	使用時期	使用回数	IRACコード
キク	アクセルフロアブル	発生初期	6回以内	22
	フェニックス顆粒水和剤	発生初期	4回以内	28
	コテツフロアブル	発生初期	2回以内	13
	スピノエース顆粒水和剤	発生初期	2回以内	5
	グレーシア乳剤	発生初期	2回以内	30
花き類・ 観葉植物	アフーム乳剤	発生初期	5回以内	6
	プレオフロアブル	発生初期	4回以内	UN
	ディアナSC (※)	発生初期	2回以内	5
キャベツ	アニキ乳剤	収穫3日前まで	3回以内	6
	フェニックス顆粒水和剤	収穫前日まで	3回以内	28
	ブロフレアSC	収穫前日まで	3回以内	30
野菜類	デルフィン顆粒水和剤	収穫前日まで	-	11A

(※) りんどうを除く

IRACコードは殺虫剤の作用機構による分類を示す。

IRACコードの詳細は、https://www.jcpa.or.jp/lab0/pdf/2020/mechanism_irac02pdfを参照する。
農薬の散布に当たっては、ラベルの表示事項を守り、他の作物や周辺環境への飛散防止に努める。

5 連絡先

農業総合試験場環境基盤研究部病虫害防除室

電話 0561-62-0085 内線471